

# 宮城県感染症発生動向調査情報

平成29年4月20日発行

－ 2017.4.10～ 2017.4.16－第15週－

## 1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							患者数	宮 城 県 (含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第12週	第13週	第14週	第15週
水痘	3 0.60	3 0.30	2 0.40				2 0.40	6 0.22	16 0.27	409	○	○	レ	
流行性耳下腺炎		6 0.60		3 1.50			1 0.50	6 0.22	16 0.27	173				
百日咳	1 0.2								1 0.02	5				
感染性胃腸炎	23 4.60	28 2.80	8 1.60	21 10.50	7 2.33	9 1.80		182 6.74	278 4.71	3,306	◎	◎	◎	◎
手足口病									0 0.00	17				
伝染性紅斑								3 0.11	3 0.05	32				
突発性発しん	2 0.40	3 0.30	3 0.60	1 0.50	3 1.00	2 0.40		19 0.70	33 0.56	412	○	○	○	○
ヘルパンギーナ									0 0.00	7				
インフルエンザ	20 2.50	27 1.80	57 7.13	10 3.33	35 7.00	42 5.25	14 3.50	101 2.30	306 3.22	25,092	◎	◎	◎	◎
咽頭結膜熱		8 0.80				1 0.20		20 0.74	29 0.49	269	レ		○	
流行性角結膜炎									0 0.00	35				
急性出血性結膜炎									0 0.00	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15 3.00	17 1.70	2 0.40	2 1.00	1 0.33	21 4.20		48 1.78	106 1.80	2,381	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0 0.00	0				
無菌性髄膜炎									0 0.00	0				
マイコプラズマ肺炎			1 1.00						1 0.08	81				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症	2 0.40	3 0.30				7 1.40		6 0.22	18 0.31	138				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)							1 1.00	2 0.40	3 0.25	27				
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	7		2					1					
	川崎病	1												
	不明発疹症								6					

◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意  
○: 発生または流行について、今後の情報に留意  
レ: 発生が少なくなっている傾向

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 6例

## 2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核

塩釜管内 女性2名  
仙台管内 男性2名、女性1名

3類感染症: 腸管出血性大腸菌(O157)

仙台管内 男性1名

4類感染症: レジオネラ症

石巻管内 男性1名

5類感染症: アメーバ赤痢

仙台管内 女性1名

梅毒

仙台管内 男性1名

侵襲性肺炎球菌感染症

塩釜管内 男性1名(第14週)

仙南管内 男性1名

## 【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

インフルエンザ患者より

気仙沼管内 第12週採取分 インフルエンザウイルスAH3型 4件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確 定			中 間 報 告		
	第12週採取分 (3.20～3.26)	第13週採取分 (3.27～4.2)	第14週採取分 (4.3～4.9)	第12週採取分 (3.20～3.26)	第13週採取分 (3.27～4.2)	第14週採取分 (4.3～4.9)
インフルエンザウイルスA(H3)	3件	0件	1件			
インフルエンザウイルスB	0件	0件	1件			
RSウイルス	0件	3件	0件			
アデノウイルス	0件	3件	4件			
ライノウイルス	0件	0件	1件			
単純ヘルペスウイルス	0件	0件	1件			

※第8週よりアデノウイルスの分離が増加しています。

## 4. 今週のコメント

### 【腸管出血性大腸菌感染症】

宮城県内で今年度初めての患者報告がありました。腸管出血性大腸菌感染症は、ペロ毒素を産生する大腸菌が原因となり、腹痛、水溶性下痢及び血便などを引き起こす感染症です。嘔吐や高熱を伴うこともあります。小児、高齢者や抵抗力が落ちている人などが感染すると、溶血性貧血、急性腎不全を来し、溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こし、死に至る例もあります。夏場に流行がみられる感染症ですので、これからの季節は注意が必要です。加熱不足の食肉からの感染もあることから、食品の取り扱いに十分注意するとともに、手洗い等の予防対策にも留意してください。

## 3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会

### 【定点把握対象疾患】

注意報・警報発令なし

宮城県定点週報告対象疾病の推移

